

第1回 赤ちゃん協議会

(周産期医療の提供体制を検討する協議会)

令和4年7月5日
石川県健康福祉部



本日の議事内容

1. 知事挨拶
2. 赤ちゃん協議会について
 - (1) 主なステークホルダーについて
 - (2) 石川県の周産期の現状
 - (3) 赤ちゃん協議会の進め方

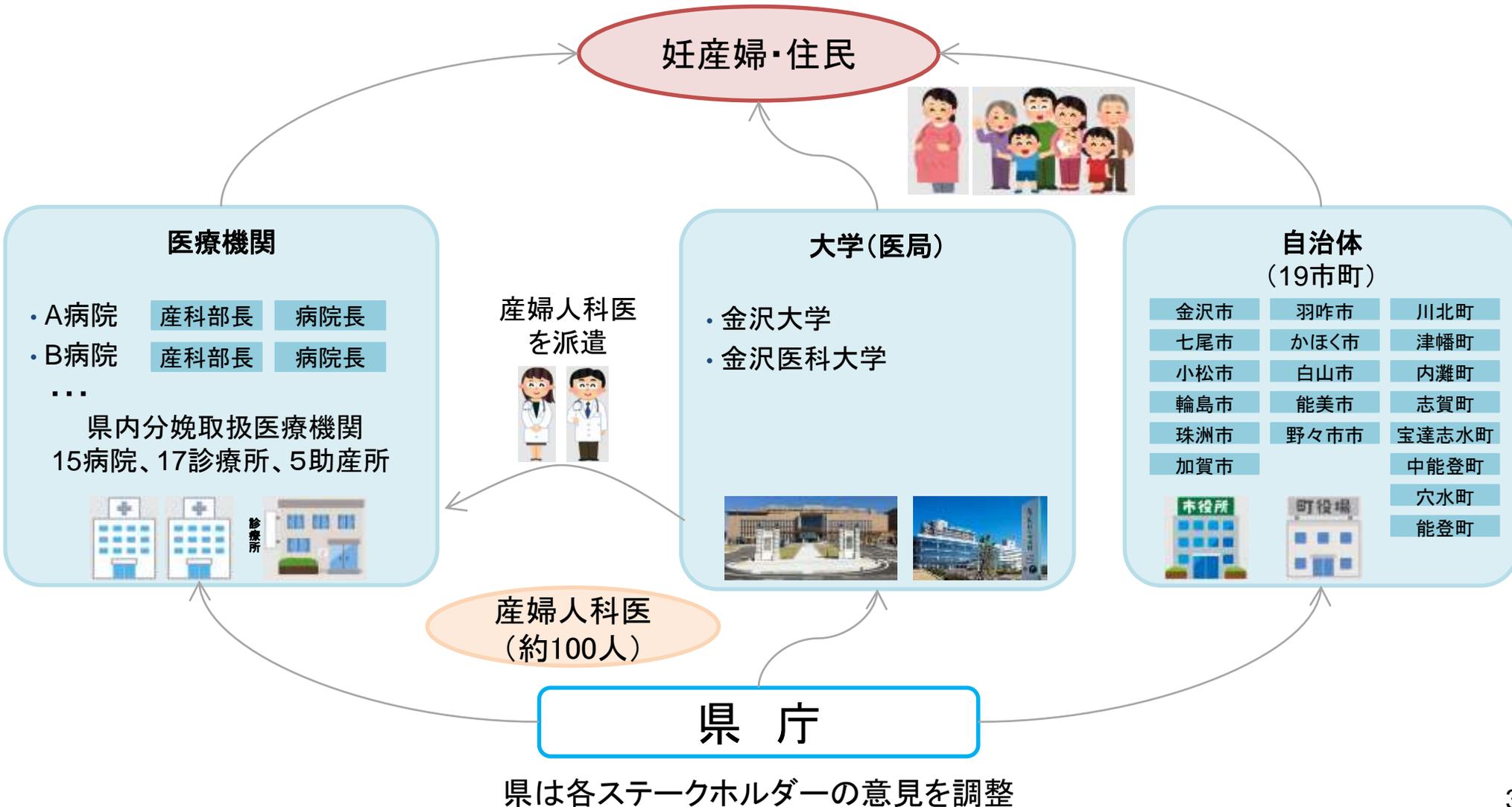
【報道退出】

3. 意見交換
 - 金沢大学
 - 金沢医科大学
 - 石川県立中央病院
 - 市町

(1) 主なステークホルダーについて

周産期医療にかかわるステークホルダー

- 周産期医療には、妊産婦と産科医だけでなく、医療機関、大学(医局)、自治体など、さまざまなステークホルダーが関係します



周産期医療にかかわる各ステークホルダーの考え

○ 周産期医療を議論する際に、各ステークホルダーの立ち位置(それぞれがどのような関心事や立場のもとに動いているか)を理解する必要があります。

1

産科医
(産婦人科部長)

安全な分娩を
行いたい!

- そのためには
- ・ 人員体制も必要だし
 - ・ 自身のワークライフバランス
 - ・ 小児科、麻酔科との協力体制
 - ・ 必要な医療機器 .. 等を考えねばならない



2

病院
(病院長・事務長)

地域に信頼される
病院を目指したい!

- そのためには
- ・ 病院経営(収支)
 - ・ 医療の安全性
 - ・ 医局からの医師派遣
 - ・ 職員の雇用 .. 等を考えねばならない



3

大学
(教授・医局長)

臨床・研究・教育を
通じて地域に
貢献したい!

- そのためには
- ・ まず、大学本院の業務をまわす必要
 - ・ 限られた医局員の数で派遣を行い
 - ・ 医局員のスキルアップ、ライフスタイル、モチベーション .. 等を考えねばならない



4

行政
(首長、市役所・町役場)

住民に安心・安全な
医療を提供したい!

- そのためには
- ・ 「安全性」と「利便性」のバランス
 - ・ 自治体内での予算の確保
 - ・ 住民への説明責任
 - ・ 自市町で実施可能な独自事業 .. 等を考えねばならない



(2) 石川県の周産期の現状

石川県の分娩施設・分娩数・産科医数（全体の概況）

- 年間約7,800件の分娩が、37施設（15病院、17診療所、5助産所）で行われている
- 分娩の場所は、約1/3が病院、約2/3が診療所である（助産所は少数）
- 常勤医として働く産婦人科医は105人であり、うち82人（病院59人、診療所23人）が分娩を取扱う

| | 分娩施設(数) | 分娩数 | 産婦人科医師(常勤) | |
|-----|---------|---------------|---------------------|----|
| | | | うち、分娩を取扱う 医師(常勤) | |
| 病院 | 15 | 2,616 (33.5%) | 64 | 59 |
| 診療所 | 17 | 5,163 (66.1%) | 41 | 23 |
| 助産所 | 5 | 35 (0.4%) | | |
| 合計 | 37 | 7,814 | 105 | 82 |

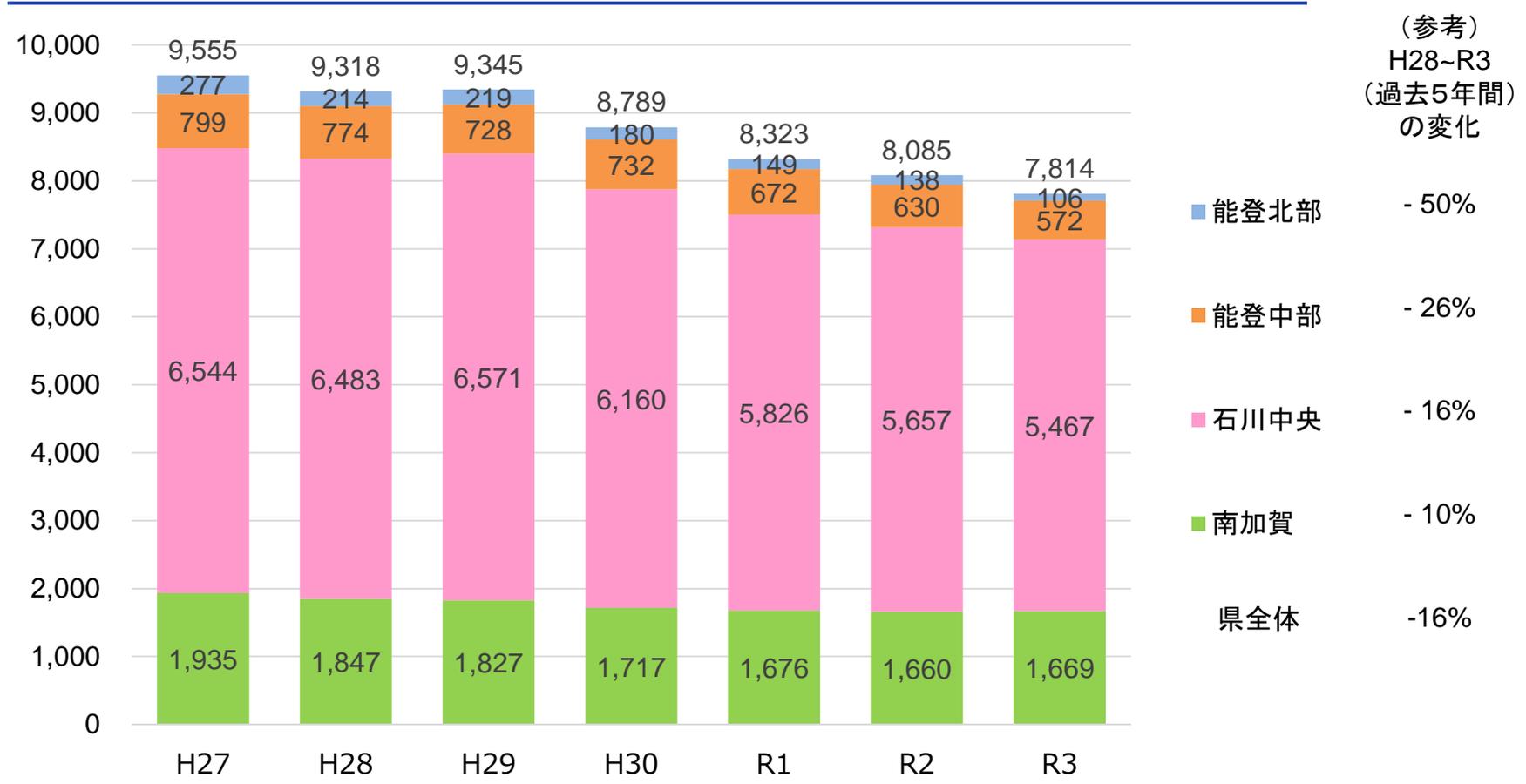
(出典) 石川県地域医療推進室調べ

(分娩施設数・分娩数: R3年度、産科医数: R4.4.1現在)

分娩数の年次推移

○ 令和3年の分娩数は、約7,800件である。
 ○ 分娩数が減少しており、特に能登北部での減少率大きい

分娩数(病院、診療所、助産所の合計)

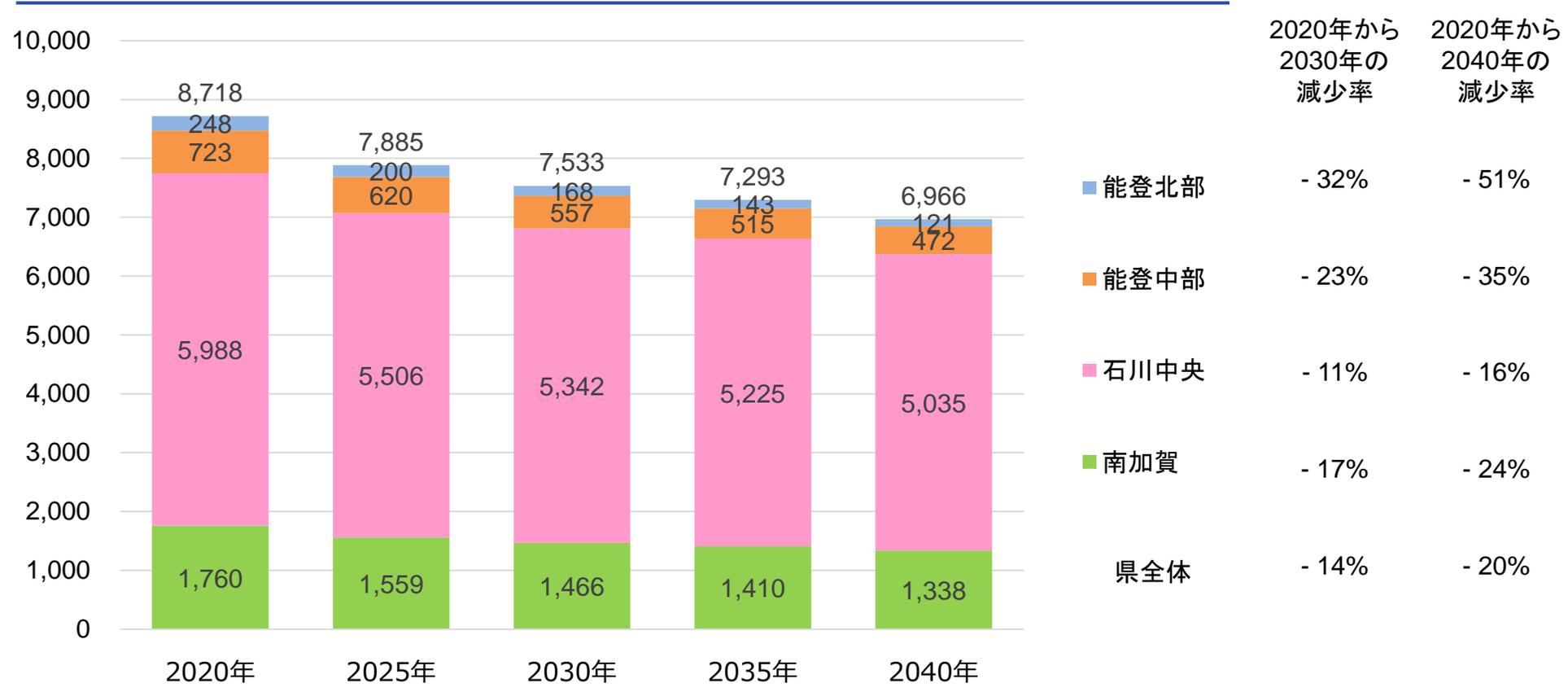


(出典)石川県地域医療推進室調べ

出生数の将来予測

○ 今後も人口動態の変化により、出生数の減少が予想される
 (参考) 出生数: 市町村が受理した「出生届」の数
 分娩数: 県が医療機関に照会して把握した「分娩」の数

出生数の予測

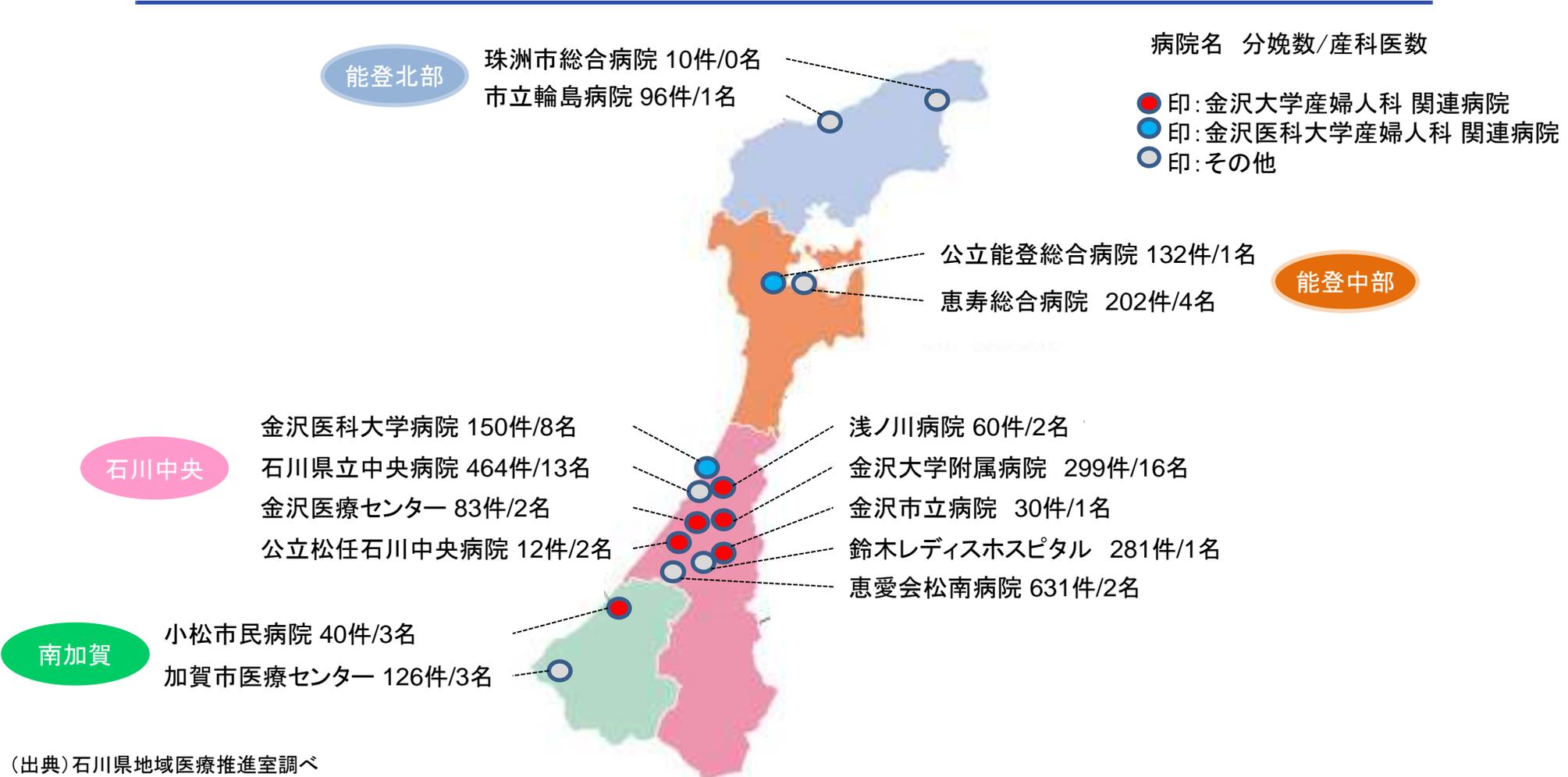


(参考) 国立社会保障・人口問題研究所
 ※出生数は、年齢5歳階級別人口の見通しから、0～4歳の階級を5で割って算出

県内の分娩施設(病院)及び分娩数・産科医数

- 各病院の分娩件数や医師数にばらつきがある(分娩件数や医師が少ない病院もある)
- 地理的には、石川中央医療圏に多くの分娩施設(病院)が集まっている

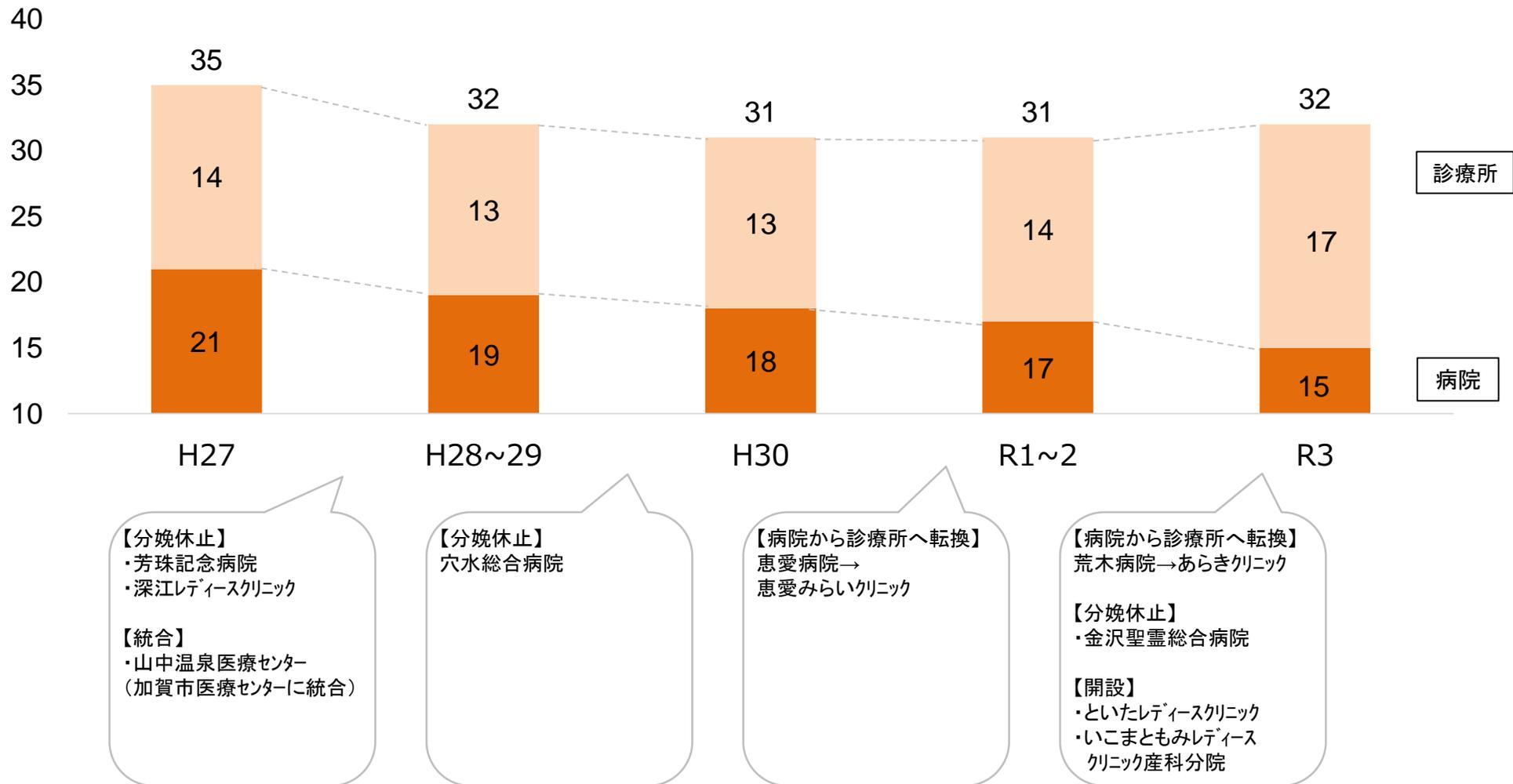
各病院の分娩数・分娩を取扱う医師数



(出典) 石川県地域医療推進室調べ
(分娩数: R3年度、産科医数: R4.4.1現在)

分娩取扱医療機関数の推移

- 分娩数が減少傾向にある中、分娩取扱医療機関数も減少傾向にある
- 具体的には、産婦人科医の高齢化・退職等を契機に分娩を停止する動きや、病院から診療所へ転換する動きがみられる



石川県の産科医数(全国との比較)

- 石川県の産科医数は、人口当たり・分娩数あたりで見ると、全国平均より多い
- 産科医の養成から採用まで十年単位でかかるため、現実的には、当面のあいだ約80人(うち病院勤務 約60名弱)の産科医で、県内の分娩需要に対応せねばならない

①15～49歳女性人口10万人対産婦人科医師数¹⁾



②医師偏在指標²⁾

①標準化産科・産婦人科医師数(人)
 ②分娩件数(千件)
 ③産科医師偏在指標(①/②)

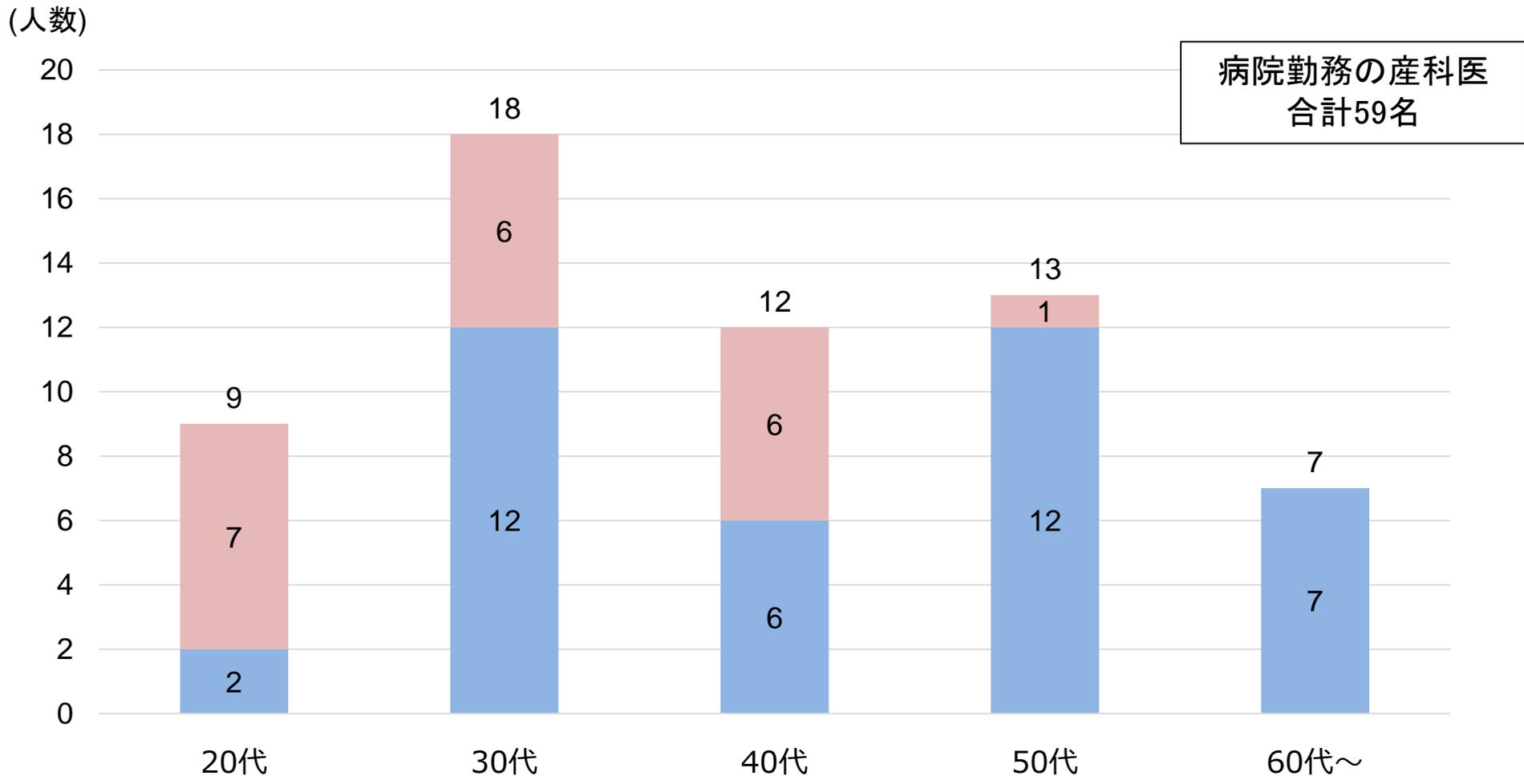
| | ①標準化産科・産婦人科医師数(人) | ②分娩件数(千件) | ③産科医師偏在指標(①/②) |
|------|-------------------|-----------|----------------|
| 全国 | 11,349 | 888.5 | 12.8 |
| 石川県 | 109 | 8.3 | 13.1 |
| 南加賀 | 13 | 2.1 | 6.5 |
| 石川中央 | 84 | 5.1 | 16.5 |
| 能登中部 | 9 | 0.9 | 9.9 |
| 能登北部 | 3 | 0.3 | 10.8 |

「偏在指標」が大きいほど産科医も多い

(出典)
 1) 厚生労働省 医療従事者の需給に関する検討会 第28回医師需給分科会 https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000208863_00010.html
 2) 石川県 医師確保計画(令和2年) <https://www.pref.ishikawa.lg.jp/iryuu/support/ishigairai/documents/02ishikakuhokeikaku.pdf>

病院勤務の産科医師数(男女別・年齢別)

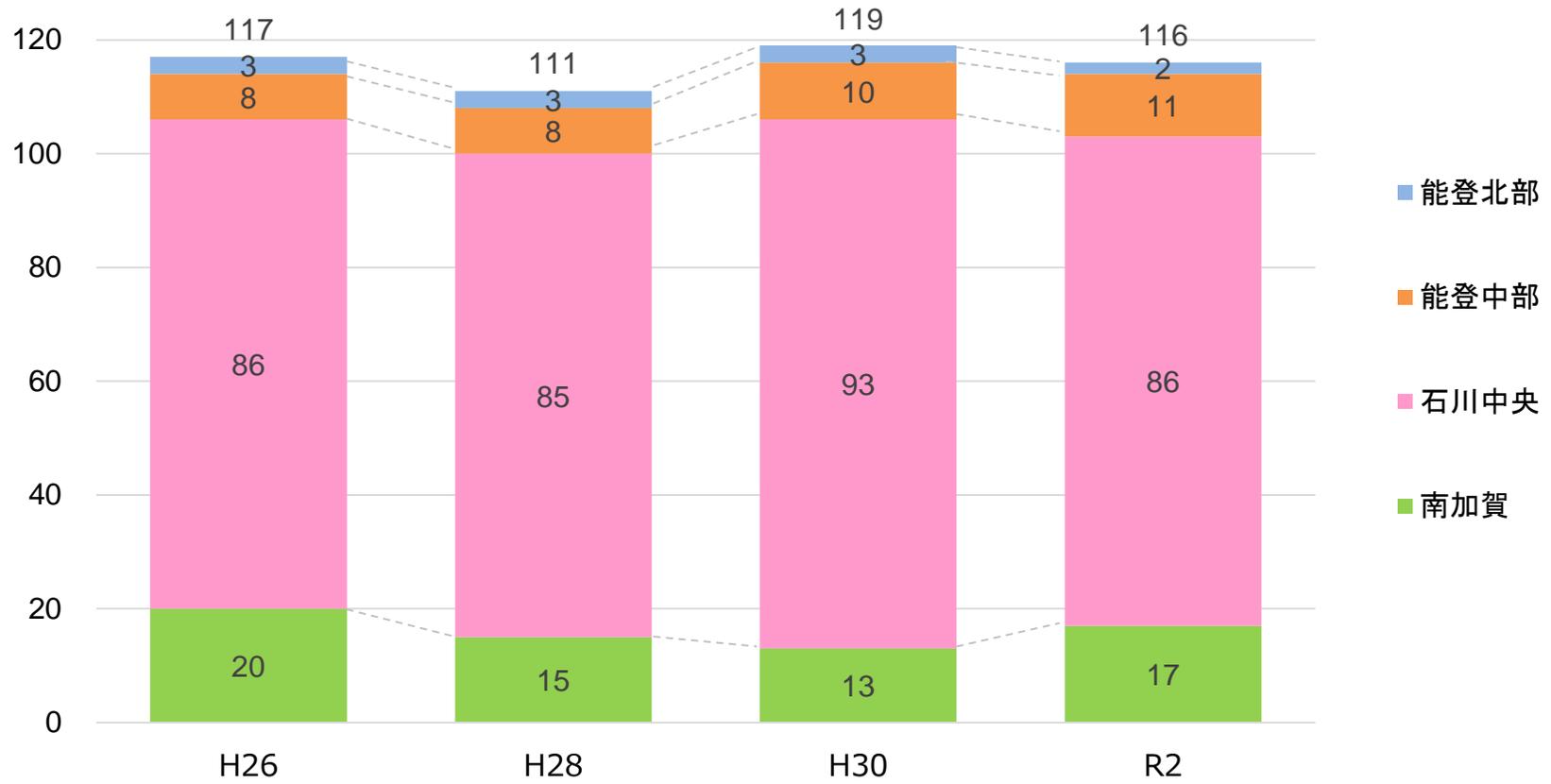
- 病院勤務の産婦人科医のうち、「分娩を取扱う」と回答した者は59名である
- 働き盛りの30-40歳代において、出産・育児により宿直が困難になる等の制約がある医師の割合が多く、現場の不足感が高いのではないかと推測される



(出典) 石川県地域医療推進室調べ(R4.4月現在)

産婦人科医師数の年次推移(医療圏ごと)

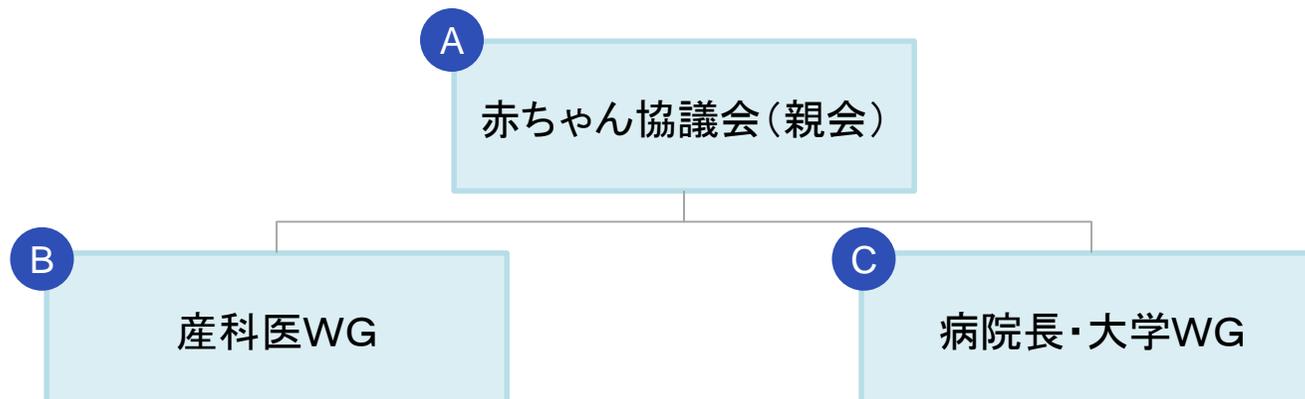
○ 産婦人科医師数は近年、著しい増減はない



(3) 赤ちゃん協議会の進め方

赤ちゃん協議会の構成

- 赤ちゃん協議会は、それぞれのステークホルダーごとの見解をまとめるために、親会と部会（ワーキンググループ）とわけて検討をすすめていきます



| 会議体 | 開催時期 | 主な参加者 | 主な議題(案) |
|--------------------|----------------------|--------------------------------|--|
| A 赤ちゃん協議会 (親会議) | 第1回: 7月5日 第2回: 今秋 | ① 産科医 ② 病院長 ③ 大学 ④ 行政 | 第1回 ・主なステークホルダーについて ・石川県の周産期の現状 ・赤ちゃん協議会の進め方 |
| B 産科医WG | 第1回: 7月中旬 | ① 産科医 | ・安全な分娩を行うために必要な体制等 (勤務時間、人員体制、協力体制等) |
| C 病院長・大学WG | 第1回: 7月下旬 | ② 病院長 ③ 大学 | ・各病院が安全な分娩に必要な体制を整えることができるかの検討 ・今後の分娩(婦人科)需要に応じた、産科(婦人科)の派遣方針、病院に求める事項等 |